

①講義の意義と概要

【意義】

この講義では親鸞聖人が明らかにしてくださった「浄土真宗」と名づけられた教えが、どのような大系をもったものであるかを学びます。三経概論、七祖概論（上三祖・下四祖）、本典概論、安心論題などの講義とは関連しているので、それらの講義の内容と重ね合わせて理解を深めていただくことを望みます。

この講義で使うテキスト『真宗要論』は、この講義を担当する藤澤が、昭和56年に行信仏教学院に入学させていただいた年に、梯實圓先生よりお聞きした講義録です。テキストには多くの専門用語が使われています。浄土真宗の教えを初めて学ぶという方には、読み方もわからない言葉も多いかと思えます。まずは、その読みに慣れていただかなければならないので、講義中にテキストを拝読していく際に、こまめにフリガナをつけてください。聞き取れなかった場合には、遠慮せずに講師におたずねください。

このテキストには、浄土真宗の教えを学ぶために必要な、基本的な言葉や考え方について書かれています。できるだけわかりやすく解説をしながら、講義をすすめていきたいと思っています。この講義を受講することで、これから皆さんが浄土真宗の教えを生涯にわたって聞き続けていかれるために、まず教えの骨格になるところを少しでも理解していただければと思っています。

【概要】

浄土真宗の開祖である親鸞聖人は、仏教の開祖であるお釈迦さまが説かれた教えの中から『大無量寿経』を選び取られ、これを真実の教えとし、この経典に説かれた教えを「浄土真宗」と名づけられました。『大無量寿経』の教えは、そこに説かれた阿弥陀仏の四十八の誓願、その中でも中心となる第十八願におさまります。

第十八願には、阿弥陀さまから与えられる信心と念仏と、それを因として浄土に往生して悟りの仏となる果が説かれています。これを往相の四法（教・行・信・証）といいます。さらには、浄土に往生して真実の悟りを開き、仏となったものは、迷える人々を救うべき身となります。これを還相といいます。

このように、浄土真宗とは、往相と還相という二つのことを阿弥陀如来という仏さまから回向される（めぐまれる）という、阿弥陀さまの救いをあらかず教えなのです。

さらに親鸞聖人は、ただちに真実の教えを受け容れることができない人たちのために、教育的手段（これを方便の教えといいます）を施された仮の法門や、仏教の道理である因果の道理にそむく教え（これを邪偽の教えといいます）に心奪われている者をいましめ、真実に導いていくという、真実以外の教えについても説かれています。

このような浄土真宗の教えの全体像を学んでいくのが、真宗要論の講義内容ということになります。これから一年間、皆さんと一緒に親鸞聖人が明らかにされた浄土真宗の教えについて学んでいきたいと思えます。

②自己紹介など

【自己紹介】

藤澤 信照（ふじさわ しんしょう）

1958（昭和33）年、鹿児島県川内市（現、薩摩川内市）生まれ。

鹿児島大学理学部卒業。行信仏教学院ならびに行信教校卒業後、滋賀県東近江市浄光寺に入寺。その後、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。

現在、行信教校講師、元布教使課程専任講師、滋賀県東近江市浄光寺住職。

著書

『親によばれて－浄光寺報法話集－』

共著『大きな字で読みやすい 浄土真宗やわらか法話2』

共著2018（平成30）年真宗教団連合法語カレンダー『月々のことば』

論文 『行信学報』などに、多くの研究論文を発表

【学生さんへのメッセージ】

行信教校には昭和56年に入学し、滋賀県のお寺に入寺するまで、5年半ほど在籍し、寮生活をしていました。講師ではありますが、皆さん方の先輩でもあります。寮生活、学校生活についてのこと、勉強方法について、気軽にたずねてもらったらうれしいです。

滋賀県のお寺は公共交通機関が不便なところにあるので、毎回、車で約1時間半かけて学校に通っています。お寺のあるあたりは、大阪の町中と違って、自然がいっぱいのところ。機会があったら、ぜひ遊びに来てください。

趣味は音楽。クラシックギター演奏。地域のコーラスの指導もしています。

【おすすめの本】

勸学寮編『親鸞聖人の教え』（本願寺出版社）

梯實圓著『親鸞聖人の生涯』（法蔵館）

石田慶和集Ⅲ『真宗入門』（本願寺出版社）

柏原祐義著『浄土三部経講義』（平楽寺書店）※すでに絶版で、古本で出しています。

その他、浄土真宗の教えに親しんでもらうのにおすすめの本として

英月著『そのお悩み、親鸞さんが解決してくれます 英月流「和讃」のススメ』（春秋社）

※タイトルのイメージと違って、浄土真宗の教えに詳しく解説されています。